

## PFOS・PFOA 追加調査の結果（第一報）について

令和4年度に実施した定点監視井戸のPFOS・PFOA検査において、指針値（暫定）50ng/L超過が確認された井戸の周辺で、検査を希望された井戸及び河川についてPFOS・PFOA検査を実施しました。  
検査結果は次のとおりです。

### 1 結果の詳細

#### (1) 井戸

指針値（暫定）超過井戸周辺の検査希望があった井戸のPFOS・PFOA検査結果は次のとおりです。

	指針値（暫定）50ng/L との比較	検出濃度範囲 (ng/L)	地点
植木地区 （定点監視の井戸含む）	指針値（暫定）50ng/L 以下	50 以下	6
	指針値（暫定）50ng/L 超過	51～100	8
		101～150	2
		151～200	0
		201～250	2
白川地区	検査対象の井戸無し		

※1ng(ナグラム)は10億分の1グラムです。

これは、学校のプール(長さ25m×幅12m×平均深さ1m)に塩3粒分(0.3mg)を溶かした濃度に相当します。(環境省資料より引用)

#### (2) 河川

指針値（暫定）超過井戸周辺の河川の上流及び下流のPFOS・PFOA検査結果は次のとおりです。

河川名称	地点数	検出濃度範囲
白川	2地点	指針値（暫定）50ng/L 以下
木葉川	2地点	

### 2 対応

- ・指針値（暫定）超過が判明した井戸の利用者を訪問して、飲用を控えていただくよう、再度文書でお願いしました。
- ・指針値（暫定）超過が判明した井戸の継続監視を行うとともに、新たに追加調査についても実施します。
- ・詳細な井戸の場所等については、個人のご協力により調査しているため、公表は差し控えさせていただきます。

次ページに続く

(参考)

1 PFOS 及び PFOA について

- ・ PFOS 及び PFOA は、有機フッ素化合物と呼ばれる化合物群の一種です。
- ・ 有機フッ素化合物は、水や油をはじく性質や熱や薬品に強い性質を持つため、フライパンや包装の表面処理剤などの身近な製品や半導体製造、消火剤等に広く用いられてきました。
- ・ 分解されにくく環境中に長期間残留する上に生体内に蓄積しやすいという性質も持っており、近年では有害性や免疫阻害性が問題視されています。
- ・ 令和2年5月に、PFOS 及び PFOA が水質汚濁防止法の要監視項目に追加され、公共用水域及び地下水における指針値（暫定）が PFOS 及び PFOA の合計で 50 ナノグラム/リットルと定められました。
- ・ PFOS 及び PFOA は現在、「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」に基づき製造や使用、輸出入が原則禁止されています。

2 指針値（暫定）について

- ・ 指針値（暫定）50 ng/L は、体重 50kg の人が、1 日当たり 2L の水を一生涯にわたり摂取しても健康に対する有害な影響が現れないと考えられる値として設定されています。
- ・ 仮に暫定目標値を多少超過している水を飲んだとしても、直ちに健康に影響が出るものではなく、通常の利用は、過度に心配する必要はないと考えられます。

3 人への健康影響について

- ・ PFOS については、ヒトにおける生殖影響や高曝露後の急性毒性等に関するデータはありません。発がん性は、国際的に主要な評価機関による評価がなされておらず、ヒトの疫学データから発がん性があるとのデータは得られていません。
- ・ PFOA については、ヒトにおいて皮膚に付着すると発赤、痛みを、眼に入るとかすみ眼を、吸入すると咳や咽頭痛を、経口摂取すると腹痛や吐き気、嘔吐を生じるといった症状が報告されています。PFOS 同様に、PFOA もヒトにおける生殖影響や高曝露後の急性毒性等に関するデータはありません。